

PATENT ABSTRACT OF JAPAN

(11) Publication number: 5(1993)-22145 Y2
(43) Date of publication of application: 07.06.1993
(51) Int. Cl: A47H 13/14
(21) Application number: S61-78883
(22) Date of filing: 27.05.1986
(71) Applicant: TOSO K.K.
(72) Inventor: Igarashi Katsushi
(54) CURTAIN TAPE
(57) Claims

1. A curtain tape comprising a belt-like tape body and wide fitting plates each being formed at an upper end thereof with a hook section, said fitting plates being adhered to the tape body at regular intervals.
2. A curtain tape as claimed in claim 1, wherein the hook section forms an insertion hook with a ball head to be attached to a hook insertion section of a curtain runner.
3. A curtain tape as claimed in claim 1, wherein the fitting plate has a lower portion formed with bifurcated sections to hold the tape body interposed therebetween.
4. A curtain tape as claimed in one of claims 1 to 3, wherein the tape body has an upper end attached to a cord.
5. A curtain tape as claimed in claim 4, wherein the tape body is partially formed with holes, the two flat bifurcated fitting plate made of plastic resin having both bifurcated inner surfaces partially secured to each other through the intermediary of the holes

Brief Description of Drawings:

Fig. 1 shows a front view of the first embodiment of the curtain tape according to the invention; Fig. 2 shows a side view for illustrating how to be used; Fig. 3 shows a perspective of the curtain equipped with the curtain tape according to the invention; Fig. 4 shows a front view of the second embodiment according to the invention; and Fig. 5 shows a section taken along the line A-A in Fig. 4.

1: tape body; 2: fitting plate; 3: hook section; 4: ball head; 5: runner

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公告

⑫ 実用新案公報(Y2)

平5-22145

⑬ Int. Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公告 平成5年(1993)6月7日

A 47 H 13/14

7151-2E

(全3頁)

⑮ 考案の名称 カーテン用テープ

⑯ 実 願 昭61-78883

⑰ 公 開 昭63-13079

⑱ 出 願 昭61(1986)5月27日

⑲ 昭63(1988)1月28日

優先権主張 ⑳ 昭61(1986)3月25日㉑ 日本(JP)㉒ 実願 昭61-42323

㉓ 考 案 者 五十嵐 克史 東京都中央区新川1丁目4番9号 トーソー株式会社内
 ㉔ 出 願 人 トーソー株式会社 東京都中央区新川1丁目4番9号
 ㉕ 代 理 人 弁理士 川上 肇 外1名
 審 査 官 木 原 裕

1

2

⑳ 実用新案登録請求の範囲

(1) 帯状のテープ本体面に、一定間隔をもつて、上辺にフックを設けた横長の取付板を接着させて成るカーテン用テープ。

(2) 頂部に円頭を有する棒状のフックの上部に、前記フックの差込支持部を設けたランナーを付設して成る実用新案登録請求の範囲第1項に記載のカーテン用テープ。

(3) 取付板の下辺にテープ本体の挾持部を設けた実用新案登録請求の範囲第1項に記載のカーテン用テープ。

(4) テープ本体の上辺にコードを取付けた実用新案登録請求の範囲第1項ないし第3項のいずれか一つに記載のカーテン用テープ。

(5) テープ本体の一部に設けた通孔中に合成樹脂製の偏平な二叉状の取付板の二叉部両内面の一部が貫通固着した実用新案登録請求の範囲第4項に記載のカーテン用テープ。

考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本案はカーテン用テープの改良に関するものである。

(従来技術)

普通のカーテンは、その上辺にテープ(ひだ帯)を縫着し該テープにランナーにつり下げするためのフックを取付けているが、洗濯時等にフックを脱着するために多くの手間がかかる。

この手間を省くため、実開昭60-95088号、同60-95089号に開示された考案は、テープに袋状部を設けてその中に棒状フックの下部を差込んで係止させ、またランナーとして内部に圧持部を有する車(ランナー)を使用し、該圧持部にフックの上部に設けた円頭部を差込んで係止させ、カーテン取付、取外しの場合フックの下部又は上部を圧持部より引出してカーテンを車より着脱させるようになっている。

(考案が解決しようとする問題点)

ところが前記の二考案は、フックと袋状部との間の係止に特別の構造が付加されているため、着脱は必ずしも容易とは言えないという問題があった。本案はこの問題を解決するためになされたものであり、その目的とするところはフックを取外さずにカーテンと共に洗濯可能なテープを提供することにある。

(問題点を解決するための手段)

前記目的を達成するため本案の特徴とする手段は、帯状のテープ本体面の上辺に、一定間隔をもつて、フックを設けた横長の取付板を接着させることにより、カーテンに取付けたときその上辺に優美なひだを形成させたことにある。

(作用)

横長で偏平な合成樹脂製の取付板はカーテンのひだを整然と形成させるから、取付板同志の間隔と取付板のテープの長手方向の幅を適宜選択する

ことにより、所望のカーテンのひだを得ることができる。

又、取付板とテープとの結合は強固であり、取付板を付けたままでもテープが比較的自由に屈曲するから、テープをカーテンに取付けたまま洗濯

(実施例)

第1図ないし第3図に示すように、帯状のテープ本体1の上辺に横長で扁平な合成樹脂製の取付板2が長手方向に一定間隔をもって接着され、その取付板2の上辺中央からフックが垂直に突出する。

図示のフック3は、棒状をなし、その頂部に円頭4を形成させ、該円頭4を第2図に示すようにランナー5の下部に設けた差込支持部6に支持させているが、フックの形状はこの実施例に限られるものではない。

更に取付板2は、板体を普通の平板状に形成させてこれをテープ本体1にのり着、縫着等の手段で接着させてもよいが、図示の実施例では、弾性プラスチック材の板体の下辺に形成した縦溝12にテープ本体1の上辺を差込み挟持させたもので、必要に応じて挟持部に接着剤を使用すれば、挟持は一層強固となつて好都合である。

第4図及び第5図に示す実施例では、テープ本体1の上辺にテープの厚さより太いコード7が織込、編込、縫着、接着等の手段で取付けられ、またテープ本体1の数個所に通孔8がけられる。取付板2は、第5図に示すように下半部の横断面は二又状に形成されるが、射出成形等の手段でテープに合成樹脂材の取付板2が取付けられるとき、二又状の両内面の一部は通孔8を貫通して連続するのでテープ本体1と取付板2との間は特に

強固に止着される。

本案カーテン用テープは、カーテン14に取付けたとき、固形の取付板2と芯の強いテープ本体1とによつてカーテン上縁に優美なひだを形成する。取付板2のテープ本体1に対する取付間隔Sと取付板2の幅を変えることにより、ひだにゆるやか又はシャープな波形を与えることができる。特に第2実施例の場合はテープ本体1と取付板2との間の接着が強固で取付板一個当りの耐荷重力が強いので取付板2の左右幅を狭くすることができ、これによつてカーテンを閉じたときの占有幅W(第3図)を狭くすることができる。なお取付板2の板体及びフック部分はプラスチック製であり、テープ本体1との結合も強固であり、取付板2をつけたままでもテープ本体1は比較的自由に屈曲するから、テープをカーテンに取付けたまま洗濯しても取付板2がテープ本体から外れるおそれはない。

(考案の効果)

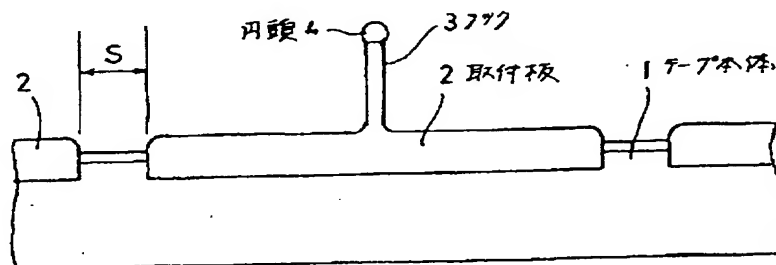
上記のとおり、本案のテープはカーテンのひだを優美に形成するだけでなく、取付板の幅と間隔を変えることによりひだの大きさを任意にすることが可能であり、カーテンに付けたまま洗濯しても取付板すなわちフックが外れることもないという従来のものにはなかつた格別の効果がある。

図面の簡単な説明

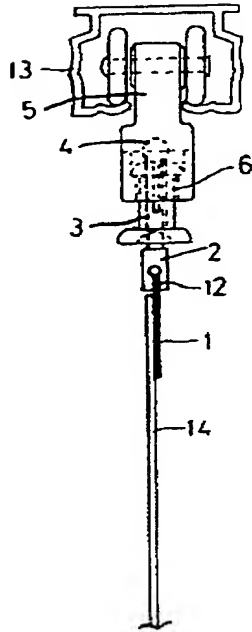
第1図は本案カーテン用テープ第1実施例の正面図、第2図は使用状態における側面図、第3図は本案テープを使用したカーテンの斜視図、第4図は本案第2実施例の正面図、第5図は第4図のA-A線断面図である。

1……テープ本体、2……取付板、3……フック、4……円頭、5……ランナー。

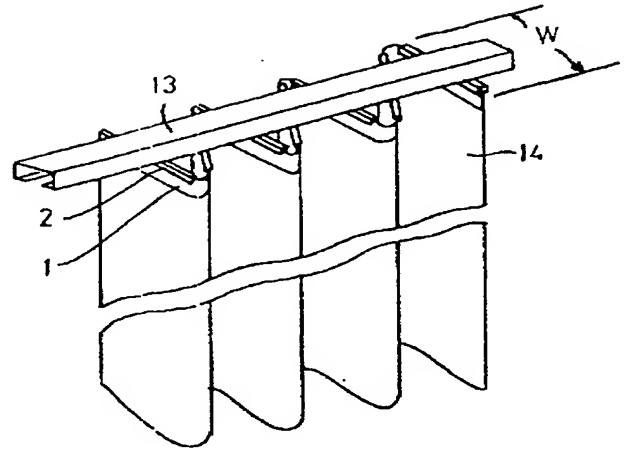
第1図



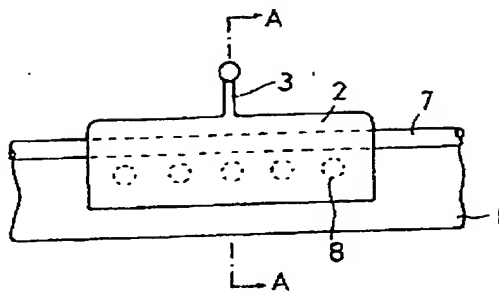
第2図



第3図



第4図



第5図

